

令和6（2024）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	ユメカサゴ	対象水域	太平洋北部（青森～茨城）
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、青森県産業技術センター水産総合研究所、岩手県水産技術センター、宮城県水産技術総合センター、福島県水産海洋研究センター、茨城県水産試験場	協力機関名	

1. 調査の概要

青森県（佐井村以東）から茨城県にいたる各県が過去に遡ってまとめた主要港の月別漁業種別水揚げ量をもとに、本資源の主要な漁業種類を抽出するとともに、海域別や月別の漁獲量を求め、主産地や主漁期を調べた。また、各県の漁獲量集計値の変動から、現在の資源の水準および動向を判断した。

2. 漁業の概要

本資源は主に底びき網で漁獲される。1995～2008年では全体の漁獲量に占める小型底びき網漁業の漁獲量の割合は26～69%と高かったが、その後は低下し、2009～2023年では8～27%となっている（図1、表1）。2009年以降は沖合底びき網漁業の割合が70%以上になっており、2023年には92%であった。

漁獲量は青森県と岩手県では少なく、宮城県～茨城県で多い（図2）。また、経年的には、2000～2008年は5～18トンで推移していたが、2009～2017年には26～59トンになり、2018～2023年には86～173トンになっている。なお、漁獲量データは2000年には岩手県、宮城県および茨城県のものがあり、2007年に青森県、2012年に福島県のものが加わっているが、2000年からデータがある3県だけで見ても、同じ傾向が見られる。

宮城県および茨城県では、直近5年間（2019～2023年）の漁獲量は沖底休漁期の7～8月を除くと9～10月に多く、1～2月に少ない（図3）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：青森県～薩摩半島の太平洋沿岸、伊豆諸島、秋田県、山形県、富山県、若狭湾～九州北西岸の日本海沿岸、東シナ海大陸縁辺域；済州島、台湾の水深130～980 m（通常150～200 m）（中坊 2013）に分布する。東シナ海・土佐湾では大型個体ほど分布水深が深い傾向があるとされる（山田ほか 2007）。
- (2) 年齢・成長：土佐湾における漁獲物の体長組成には比較的明瞭な複数のモードがみられ、堀川・通山（1991）はこれを年級群と仮定して解析を行っている。これによると、1歳で10.6 cm、2歳で14.9 cm、3歳で18.8 cm、4歳で22.0 cmほどになると推

測されている。

- (3) 成熟・産卵:本種の繁殖に関する知見は乏しい(中坊 2018)。ユメカサゴ属 *Helicolenus* は交尾後にゼラチン質の嚢に包まれた胚が産み出され、その後に孵化が起こる受精卵性(いわゆる卵胎生)である(中坊 2018)。仔稚魚の採集例や卵巣卵の発育状況から、1~3月頃に出産すると推測されている(山田ほか 2007)。茨城沖では、全長 25 cm を超えるような比較的大型の個体でも生殖腺はほとんど発達しておらず、当海域で再生産が行われているかどうか不明である(益子 2015)。
- (4) 被捕食関係:ハダカイワシ類、ギスのレプトセファルスなどの魚類、ホタルイカ類などの頭足類およびアミ、オキアミ類、コシオリエビ類やサクラエビ類などの甲殻類の捕食が確認されている(益子 2015)。捕食者は確認されていない。

4. 資源状態

上述のように青森県から茨城県の漁獲量が揃ったのは2012年からである。また、東日本大震災の影響により、2012年以降の福島県の漁獲努力量が大幅に低下しており、同県の漁獲量は資源状態を反映しているわけではないと考えられる。そこで、比較的長期データがあり、漁獲量も多かった宮城県と茨城県の2000~2023年の漁獲量を用いて水準と動向を判断した(図4)。水準の判断には両県の合計漁獲量を用い、漁獲量の平均値よりも30%以上多い場合を高位水準、30%以上少ない場合を低位水準とした(高中位境界=50トン、中低位境界=27トン)。2023年の宮城県と茨城県の合計漁獲量は86トンで平均値の136%に相当することから、水準は高位と判断した。また、直近5年間(2019~2023年)の漁獲量では、2021年をピークに減少し、2023年は最も少なかったことから、動向は減少と判断した。

5. その他

資源回復のための取り組みは行われていない。生物特性や資源構造に不明な点が多く、さらなる情報収集が必要である。

6. 引用文献

- 堀川博史・通山正弘(1991) 土佐湾におけるユメカサゴの分布・成長および食性について. 南西外海の資源・海洋研究, 7, 51-57.
- 益子 剛(2015) 茨城県沖で漁獲されるユメカサゴについて. 東北底魚研究, 35, 11-16.
- 中坊徹次(編)(2013) メバル科. 668-681. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野. xlix + 2428 pp.
- 中坊徹次(編・監)(2018) 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京. 524 pp.
- 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次(2007) 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. lxxiii+1262 pp.

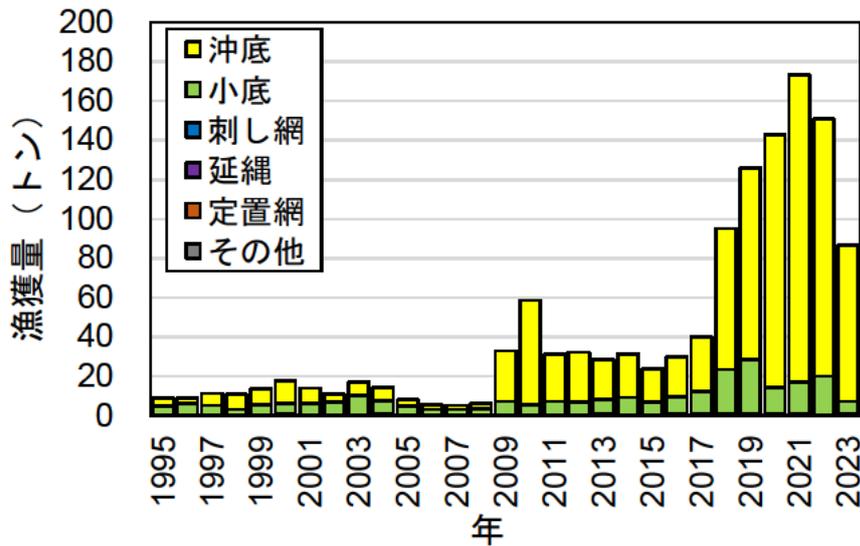


図1. ユメカサゴの漁業種類別漁獲量 集計に用いた期間は県によって異なる（青森県：2007～2023年、岩手県：1995～2023年、宮城県：2000～2023年、福島県：2012～2023年、茨城県：1995～2023年）。

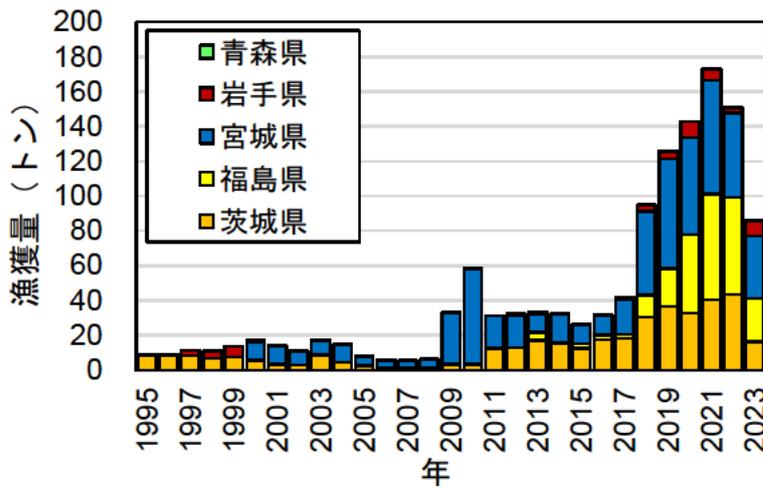


図2. ユメカサゴの県別漁獲量 集計に用いた期間は県によって異なる（青森県：2007～2023年、岩手県：1995～2023年、宮城県：2000～2023年、福島県：2012～2023年、茨城県：1995～2023年）。

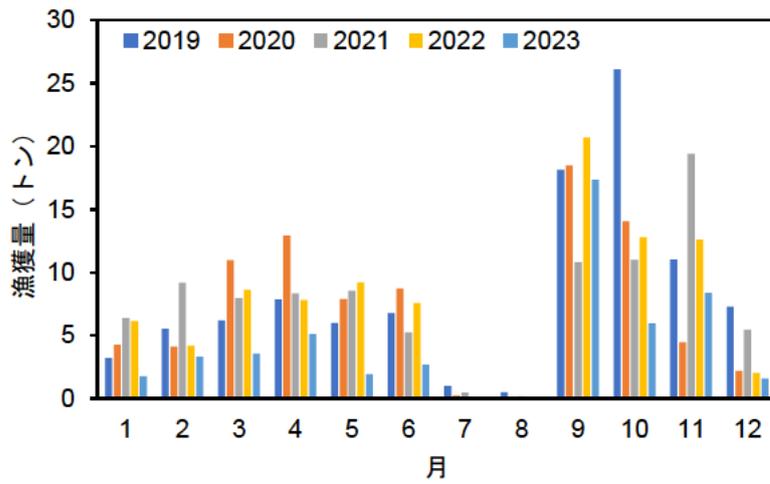


図3. 宮城県および茨城県におけるユメカサゴの月別漁獲量

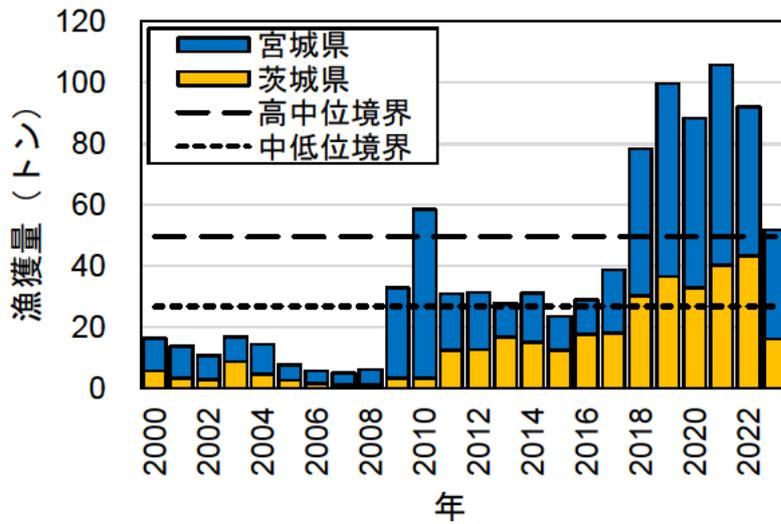


図4. 宮城県および茨城県におけるユメカサゴの漁獲量の推移

表 1. 1995～2023 年におけるユメカサゴの県別漁獲量（トン）

集計に用いた期間は県によって異なる（青森県：2007～2023 年、岩手県：1995～2023 年、宮城県：2000～2023 年、福島県：2012～2023 年、茨城県：1995～2023 年）。

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	0	0	3	4	6	1	0	0	0	0	0	0
宮城県	-	-	-	-	-	11	10	8	8	10	5	4
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	9	9	8	6	8	6	3	3	9	5	3	1
合計	9	9	11	11	14	18	14	11	17	15	8	6

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩手県	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	4
宮城県	4	5	30	55	18	19	11	16	11	11	21	48
福島県	-	-	-	-	-	0	5	1	2	2	2	13
茨城県	1	1	3	3	12	13	17	15	12	18	18	30
合計	5	6	33	59	31	32	33	32	26	32	42	95

	2019	2020	2021	2022	2023
青森県	0	0	0	0	1
岩手県	4	9	7	3	8
宮城県	63	56	65	48	36
福島県	22	45	61	56	25
茨城県	36	33	40	43	16
合計	126	143	173	151	86